

33 万葉をしのぶ乙女像『たまがわ』



受賞者：なし
 推薦者：加藤 弘 さん

【推薦コメント】

狛江駅前の乙女像の名称は「万葉をしのぶ乙女像『たまがわ』」です。市民の方々の中には「万葉乙女像」と言う方がおられますが、それは間違いです。その表現では、万葉時代の服装をしている乙女像となってしまう。あれは現代に生きる娘です。この像を発案した小生は、多摩川で布をさらしている乙女像を考えました。それは中和泉4丁目にある東京都指定旧跡の「玉川碑」を親しく案内するためです。

多摩川に さらす手作り さらさらに 何ぞこの兒の
 ここだ愛（かな）しき （万巻14東歌3373（サザナミ））

しかし、「布をさらす乙女」を具象像にすると、下の句で詠んでいる「どうしてこの娘はこんなにも可愛いのだろう」というように、像も誰からも愛されることは不可能であることに気づきました。これは「乙女像を作る狛江市委員会」の審議の中でした。

それ故、現代の乙女が古代の万葉の世界をしのぶ乙女像になり、広く市民の皆様方から親しまれています。

【講評】

乙女像は、市の玄関口である狛江駅北口のシンボルとして鎮座し、市民に親しまれています。少しうつむき加減のその様は、多摩川の川面を見つめながら歌の内容に思いを馳せている乙女（少女）の姿をうまく表現しています。今回の推薦では、こうした乙女像の由来や背景を丁寧に説明し、像の魅力を引き立ててくれており、この歌を刻んだ玉川碑（万葉歌碑）とあわせて、万葉時代の空気を伝える貴重な存在として高く評価できます。